



NHO Shibukawa Medical Center

ウイズ

— No.100 —

令和3年1月（2021年）

編集発行

独立行政法人 渋川医療センター
国立病院機構

電話 0279-23-1010
FAX 0279-23-1011

E-mail:207-ShibukawaMC_mbx@mail.hosp.go.jp

https://shibukawa.hosp.go.jp

渋川医療センター 広報誌



高木 渋川市長と病院幹部職員

基本理念

北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携しその役割を果たします。

基本方針

1. 患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します。
2. 十分な情報を提供し、共に考える医療を行います。
3. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児（者）の専門病院として社会に貢献します。
4. 地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します。
5. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します。
6. 教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します。
7. 良質な医療を継続的に確保するため、健全な経営と適正な運営に努めます。

目次

年頭ご挨拶 ～ウイズ100号記念～ 1

創刊100号記念

- ・ウイズ創刊100号にあたって 2
- ・ウイズ100号記念誌に寄せて 3
- ・ウイズ100号に寄せて 4
- ・NHO Nishigunma Hospital ウイズから
NHO Shibukawa Medical Centerへ 7
- ・ウイズ100号の発刊によせて 9

職場紹介

- 放射線科 11
- 看護外来 12

- 外来診療担当医表 13
- セカンドオピニオン担当医表 15

年 頭 ご 挨拶 ～ウィズ100号記念～



院長 蔦田 富士雄

新年あけましておめでとうございます。昨年中は当院との地域医療連携におきまして多大なるご協力をいただきまして誠にありがとうございました。昨年は2月にクルーズ船で発生した新型コロナウイルス感染症患者を受け入れて以後、群馬県や渋川市、地区医師会、保健福祉事務所、広域消防等のご協力を得て、病院の感染対策に万全を期して、院内感染予防を徹底し、Withコロナでも患者さんが安心して受診できる体制を整えて参りました。また、新型コロナウイルス感染症受け入れ重点医療機関として、渋川市をはじめ市民の皆さんやその他多方面から心温まるご支援をいただき、日々感染のリスクを受けストレスを感じつつも勤務に励んできた職員にとっても大きな励みとなりました。改めて当院を支えて下さったすべての方々に感謝申し上げます。

さて、当センターは2016年4月の開院以来5年を経過しようとしています。北毛地域の基幹病院という位置づけにある総合病院として、ようやく地域に定着してきたと思われれます。今後も地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、新型コロナウイルス患者を引き受ける第二種感染症指定医療機関として、地域に必要な救急医療、がん診療、感染症治療などを安定的かつ継続的に提供でき、災害時の診療体制確保にも努め、地域医療に貢献し、その役割を果たしていく所存です。

また、今後の取り組みでは、当院のニューロモジュレーションセンターで脳神経外科が行っている、てんかんやパーキンソン病といった脳の機能的疾患の外科治療で、現在県の「てんかん診療拠点病院」申請の準備を行っています。整形外科では、手の外科手術や人工股関節手術など行っており、ハンドケアセンターを立ち上げて、手の手術後のリハビリなど手の機能回復維持を図っていきます。血液内科では、悪性リンパ腫・骨髄腫センターを設け、特化した専門治療を展開する予定です。

皆様にお届けしている当院の広報誌「ウィズ」が、今回で100号目の発刊を迎えました。前身である西群馬病院で発行を開始してから、医療関係は勿論、市民の皆様や関係方面に情報提供等を行ってまいりました。これからもより一層皆様方に有益な情報を提供してまいりたいと思っております。どうぞ本年もよろしく願いいたします。

ウィズ創刊100号にあたって

副院長 松本 守生



ウィズという病院の広報誌は平成8（1996）年1月に創刊されました。25年も前のことで、まだ当院が国立療養所西群馬病院と呼ばれていた頃のことになります。西群馬病院の診療や行事・活動内容を地域の皆さま、開業医の先生方に紹介するのが目的でした。今回が第100号という丁度節目の号になりますが、その栄えある100号に文章を載せていただくことになり、私自身大変光栄に思っております。

当院も国立療養所西群馬病院から平成16（2004）年4月には国立病院機構西群馬病院となり、平成28（2016）年には現在の国立病院機構渋川医療センターとなりました。榛名山の麓、伊香保温泉近くの渋川市金井から、現在の地、渋川市白井に病院自体を移転するという大事業を行いました。入院患者さんの搬送、医療機器の運搬など、後にも先にも経験したことのない大がかりな引っ越しだったのを鮮明に覚えております。渋川医療センターになってからもウィズという広報誌の名前はそのまま残り、現在に至っております。

西群馬病院時代の診療機能は呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患、緩和ケアなどのがん診療と結核、重症心身障害児診療が中心でしたが、渋川医療センターになってからは皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、総合診療科などが新たに開設され、放射線科も放射線診断科、放射線治療科に分かれて診療を行うようになりました。地域医療、救急医療にも重点を置いて、北毛地域の基幹病院として職員一同頑張っています。職員の数も大幅に増え、院内の行事・活動もますます盛んになっていますが、地域の皆さまにとって役に立つ情報をこのウィズで発信させてもらっています。

さて令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症で明け暮れた1年となってしまいました。皆さんも日々の生活にいろいろな注意をされていると思いますが、当院でもたくさんの院内行事が中止となり、いささか寂しい思いがしております。診療も電話診察が可能となるなど、コロナ禍での病院の体制にも変化が出ております。例年病院内で行っていた市民公開セミナーは病院ホームページに動画を載せるという新しい形にさせていただきましたが、例年を上回る数の方々が視聴されており、改めて病院からの情報発信の大切さを知りました。

新型コロナウイルス感染者の数も増え続けており、まだまだ先の見えない昨今ですが、地域の皆さま、開業医の先生方に慕われ信頼される病院としてますます発展していきたいと思っております。また病院広報誌ウィズでは、皆さま方のお役に立つ情報をこれからもたくさん発信していきたいと考えておりますので、今後もよろしくお願い申し上げます。

ウィズ100号記念誌に寄せて

がん診療部長 乳腺・内分泌外科 **横田 徹**

私が前身の国立療養所西群馬病院へ赴任したのは平成10年（1998）4月でしたが、ウィズの創刊はその2年前の平成8年（1996）1月だそうです。今回25年の歳月をかけて100号を迎えたそうで本当におめでとうございます。おそらく院内のみならず市役所、公民館等公的機関から地域連携の医療機関に広く配られて病院について親しんでいただいたものと思われます。

今回100号に寄せるにあたり、私が持っている平成14年（2002）の25号からを読み直すと過去の記憶がよみがえり、ああ、こんなことがあったと懐かしく思います。私自身古い人間なので現在の形式的なウィズの方がいいとは思っていません。病院規模が今より小さかったこともあり過去のウィズは新入職員全員の顔写真とコメントが入り親しみが持てました。現在は個人情報保護の問題もあって、同じようなことは可能ではないでしょう。

私にとってはウィズが大きな転機になったことがあります。当時、乳癌学会と形成外科学会の合同で乳癌乳房切除術後の乳房再建術が保険適用となり、何とかうちの病院で乳房再建術ができないか、と関東の知り合いの形成外科医たちに打診をしていましたが、その時、ウィズに書かれた私の診療科紹介を読んだ群大、歯科口腔外科・形成外科の横尾教授のお蔭で臨床教授の牧口先生が来院して下さることになり、渋川医療圏の乳癌患者さんが乳房再建術を受けられるようになりました。本当にウィズが取り持ってくれた幸運でした。

25年の間に、病院を取り巻く環境やその機能は大きく変遷して国立療養所から国立病院機構への独法化、渋川医療センターの設立による救急医療の開始等があり、ウィズの内容もそれに伴い内容も変わってきました。現在コロナウィルスの影響で以前のように地域内でのコミュニケーションが維持できなくなり、ウィズの役割は一層重要になっていくものと思われます。これからも病院と共にウィズが継続発展していき、私のように多くの方がウィズの恩恵を受けられることを願っています。

< ウィズ25号 >



ウィズ100号に寄せて

事務部長 萩原 隆

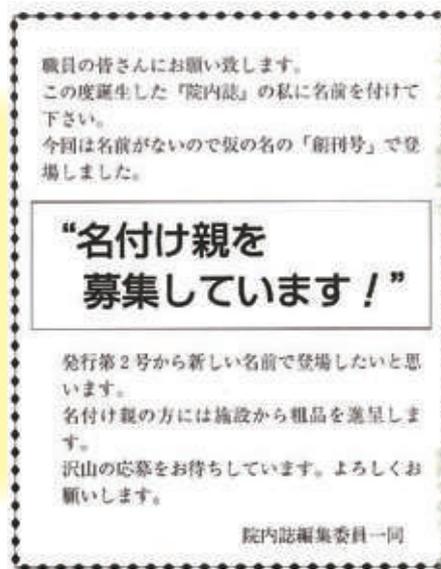
新年、あけましておめでとうございます。本年もウィズをよろしくお祈いします。

さて、広報誌ウィズは、1996年1月、今から25年前に当時の国立療養所西群馬病院（国立病院機構西群馬病院の改称前）の院内広報誌としてスタートしました。まだ名称もなく「名付け親を募集しています！」と名無しの権平としてのスタートでした。

< 創刊号 1号 >



< 創刊号 p8 >

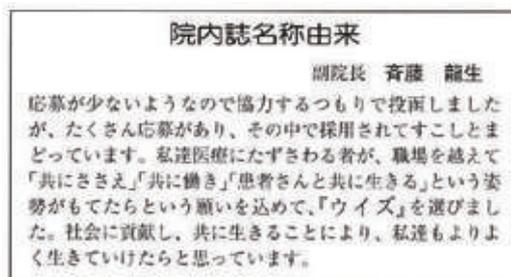


< ウィズ2号 >



院内募集の結果、第2号1996年4月号において当時の副院長であった齋藤龍生先生（前院長、現名誉院長以下「齋藤先生」）が名付け親となり題字も齋藤先生にお願いしました。名称の由来は『医療にたずさわる者が職場を超えて「共にささえ」「共に働き」「患者さんと共に生きる」という姿勢をもてたらという願いを込めて』とのことでした。

< ウィズ2号 p8 >



頑張るだけではどうにもならない、これからはどう頑張るかだ

この度、西群馬病院の院長を拝命し、平成16年度の独立行政法人国立病院機構を前に、身の引き締まる思いです。結核療養所が母体であった当院は、結核患者の減少に伴い、まずは脳血管障害の医療を始め、その後政策医療として重症心身障害児の療育を導入、そして肺がんをはじめとしたがん医療・エイズの治療を開始し、更に緩和ケア病棟の開設と精神科医師の参入によるQOLを重視した医療を展開するなど、常に時代の流れにいち早く対応して、その専門分野を発展させてきました。現在は、がん・呼吸器疾患（結核を含む）・重症心身障害児の医療という国の政策医療を担う専門医療施設として、がん・結核・エイズ医療の群馬県地域拠点病院としてその存在意義を問われています。

独立行政法人化に伴う企業会計の導入は、各病院が60年間施設整備として国から借り入れていた累積債務の返済と、減価償却費の計上をもち、経常収支の良い病院にとっても、予想を超えて病院経営を圧迫すると考えられています。独立行政法人化後も職員の身分は国家公務員に準ずるため、日産のゴーン会長のような大改革は不可能であり、極めて限られた手法の中での良質な医療の提供と経営改善を迫られるわけですが、今や国立病院は全病院の約2%にすぎない現実をふまえると、国立病院でしか勤務経験のない職員や長期に勤務している職員にとっての常識は、世の中の多くの病院では必ずしも常識ではないという認識を持たなければなりません。なぜ、一般病院では国立病院の2〜3倍の医師がいるのか、病棟事務員が存在するのか、医事業務に力を入れているのか？ その答えは、その方

院長 斎藤 龍生



が医療の質が向上し収益効率が良くなるからであり、病院事務の根幹は医事業務だからです。しかしながら、大幅な定員の変更は難しい現状ですから、限られた人材と資源を有効活用するしか方法はありません。病院という職場は、専門職員の「はざま」ともいべき仕事がたくさんあります。誰がするべき仕事だとか、仕事を押しつけあうのではなく、患者さんにとって利益があるように、患者さんが求めているところの専門的知識を生かした業務を優先的に行うという考え方を持たなければなりません。国立病院の職員は確かに頑張っています。しかし、求められているサービスを提供せずにただ頑張るだけでは、よりよい医療を提供することには繋がりません。私の役割は、病院全体から見て「どう頑張るべきか」の根拠を明らかにし、それぞれの職場に納得していただきながらその方向と優先順位を示していくと考えています。自分たちの思い込みの医療の提供ではなく、情報提供のあり方を見直し、コミュニケーション技術を磨き、それぞれの部門がサポートしあいながら、患者さんの望んでいる医療をそれぞれの職場が誇りを持って提供すること、その先に西群馬病院の未来があると信じています。建前やお題目を捨て、一人一人が自らの病院について考える職員となることが求められています。皆さん、ご協力の程、よろしくお願いたします。

就任にあたって

この度、7月1日付で副院長を拝命しました。当院に勤務して丸12年間、消化器外科の診療を中心に毎日頑張ってきましたが、これからは診療を3割、管理・運営を7割にして、まず来年にせまった独立行政法人への移行の準備を進めていかねばなりません。診療に関しては、患者様や関係部署にあまり御迷惑がかからないようにしたいと思いますが、今後は肝癌の診断・治療のみを主として、他は後輩に任せるつもりです。管理・運営では、経営改善や医療安全対策は勿論、いろいろな部署との調整役を行わねばなりませんので、それには皆さんの意見に耳を傾け、なるべく

副院長 蒔田 富士雄



直接出向いたりしてオープンな感覚で風通し良くお互いの理解を深めていきたいと思っています。今後西群馬病院の発展のために個々がやりがいのある職場を目指し、斎藤院長を助け、病院の管理・運営が円滑に行われるよう努力しますので、皆さんの御協力をよろしくお願いたします。

斎藤先生らしいネーミングだと感じました。少しでも過去を紐解くと、第31号2003年7月号では、斎藤先生が院長に就任し「頑張るだけではどうにもならない、これからはどう頑張るかだ、患者さんの望んでいる医療をそれぞれの職場が誇りをもって提供することに病院の未来がある」と綴られ、蒔田富士雄先生（現院長、当時副院長）が「就任にあたって、病院の発展のために個々がやりがいのある職場を目指す」と綴られています。結果、ゴールデンコンビにより西群馬病院が後に渋川医療センターに衣替えすると考えていらっしまったかどうかは分かりかねま

すが。

また、第48号2007年10月号では「第1回市民公開セミナー」を開催し、300人あまりの市民の方々が参加したと記されています。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のためウェブ形式での開催としました。こちらからもご覧いただけますので、ぜひ、覗いてみてください。

アンケートも用意してありますので、忌憚のないご意見を伺えると幸いです。



< ウィズ48号 >



< ウィズ48号 p1 >

市民公開セミナー(第1回)を開催して

企画課長 桑原 睦夫

平成19年9月2日(日) 渋川プリオパレスにおいて、群馬県、渋川市、渋川保健福祉事務所、渋川地区医師会、群馬大学付属病院の後援をいただき、「知ってあせないがんの知識」というテーマで第1回目の市民公開セミナーを行った。



会場玄関

これは、厚生労働省が行うがん診療連携拠点病院機能強化事業によるもので、(1)がん医療従事者研修(2)がん診療連携拠点病院ネットワーク(3)院内がん登録促進(4)がん相談支援(5)普及・啓発・情報提供等を行うことが目的である。この事業の補助金を利用して看護師の相談員を置くとともに、普及・啓発を行うということから今回の市民公開セミナーを企画することとなった。

1番の心配である参加者について、1人でも多くの方に参加していただくようポスターを作成し、セミナーの約2週間前に渋川市内とその近隣町村に合わせて31,000部の新聞折り込みで配布した。

開催日当日は天候にも恵まれ、また日曜日であったにも関わらず、264席用意した会場がほぼ満席の状態でした。地元渋川市内からの参加者が約半数を占め、残りは周辺の市町村からの参加者であ



がん相談

った。



血圧測定



アロマケア

講壇に先立ち、医師による各種(肺がん等8つのブースを設ける)がん相談、骨密度測定、動脈硬化度測定、看護師によるアロマケア体験、栄養相談、お薬相談、福祉相談、放射線機器の紹介等も各ブースを設け実施しました。特に骨密度や動脈硬化度測定への関心が高く、予想を上回る相談や測定希望があり大変好評を得ました。

一方、講壇については、第1部が富澤呼吸器科医長の「肺がんについて」、続いて冨田副院長の「肝臓がんの診断・治療・予防」というテーマで講演が行われた。また、第2部においては斎藤院長による「身近な人ががん



講演会

創刊から四半世紀の時を経て、100号発行という記念の瞬間に立ち会えたことを光栄に感じています。奇しくも、名づけ親の斎藤先生が、昨年3月末をもって退任され、名誉院長に就任されました。100号の発行と名づけ親の退任とはあまりにもドラマティックなタイミングだと感じます。

新型コロナウイルス感染症による世界的な蔓延が終息しない現在ですが、明けない夜はないことを信じて病院運営に当たりたいと考えています。

今後とも渋川医療センターとウィズをよろしく願います。



NHO Nishigunma Hospital ウィズから NHO Shibukawa Medical Center ウィズへ

元事務部長 宮崎 健司
(在職期間 2012. 4. 1 ~ 2017. 3. 31)

「ウィズ」100号おめでとうございます。令和3年1月発行の表紙はどんな写真になるのでしょうか？ 見出しは？ 編集委員会の皆さんの楽しい悩みを想像しながらこの原稿を書いています。

私が西群馬病院に着任したのは平成24年（2012年）4月1日、いま改めて「ウィズ」第65号（平成24年1月号）で斎藤龍生院長の年頭のご挨拶「平成24年はチャレンジの年—西群馬病院は、いよいよ移転・新病院に向かって始動します—」を読み返しています。

当時、人事異動の内示を受けこの記事を何度も読み、西群馬病院の事務部長として赴任する責任の重さに気を引き締めたことを思い出します。（斎藤院長が若いです！）

< ウィズ65号 >



< ウィズ65号 p1 >



< ウィズ66号 >



< ウィズ68号 >



< ウィズ68号 p1 >



「ウィズ」では新病院のことをたくさん紹介しました。66号（平成24年5月号）は「新病院の整備および運営に係る基本協定調印式」の様子で表紙を飾りました。

68号（平成24年10月号）では「渋川へそ祭り」初参加の様子を紹介、3年後に西群馬病院が山から里に下りて、渋川総合病院、渋川市と一体となって地域医療を担うのだという意識で参加したことを思い出します。私も浴衣踊りで参加。暑かった！

< ウィズ69号 >



< ウィズ73号 >



< ウィズ73号 p1 >



< ウィズ81号 >



69号（平成25年1月号）では「新病院のイメージ図」で表紙を飾り、渋川医療センター（仮称）の基本的方針と統合整備事業の進捗状況を報告しました。73号（平成26年1月号）からはシリーズで「新病院（渋川医療センター（仮称）だより）」と題し、主に建築工事の進捗状況を中心に81号（平成28年1月号）までお知らせしてきました。そうそう、この81号「ウィズ」が西群馬病院から発行する最終号となりました。表紙は、赤城山を背景に正面玄関前に集めた職員が手を振っています。

そして、「渋川医療センター開院特集号」の「ウィズ」第82号。表紙は平成28年3月12日に行った一般内覧会の後に正面玄関前で撮影したものです。約5,500人が参加した大盛況のあとの集合なので「イエイ！」という感じで皆活気に満ちています。表紙の「渋川医療センター」の字形ですが、どこかで見た覚えがありませんか？

< ウィズ82号 >



病院敷地入り口の右側にある看板の字形です。新病院の看板作成にあたり齋藤院長（現名誉院長）に書いていただいたものです。思い出はたくさんあるのですが、誌面の残りも少ないので。

「ウィズ」第1号が平成8年1月発行ですからちょうど25年を経過したことになります。まだまだこれから先、50年、100年と渋川医療センターと「ウィズ」のご発展を祈念しております。

ウィズ100号の発行によせて

前事務部長 **楠 孝司**

(在職期間 2017. 4. 1 ~ 2019. 3. 31)

ウィズ100号の発行おめでとうございます。

西群馬病院時代から継続して発刊され、地域みなさまに親しんでご愛読いただいていると推察いたします。

ウィズでは、創刊号から100号まで、さまざまな病院の出来事や診療内容など病院の歴史が読み取れる貴重な財産となっていることと思います。

私は事務部長時代の2年間におけるNo.86～No.93の編集を担当させていただき、広報委員会で検討された掲載内容を各部門の職員の皆様から原稿を賜り刊行してまいりました。

以前、ウィズは職員に向けた内容も含まれておりましたが、当時渋川医療センター開院1周年を迎え、地域の皆様に渋川医療センターでの診療や活動についてご紹介をするとともに、また、地域の医療機関として住民の方々の生活上での健康管理に役立つ情報、医療についての知識など知っていただくための広報誌として改編してまいりました。

< ウィズ86号 >



< ウィズ87号 >



< ウィズ88号 >



< ウィズ89号 >



< ウィズ90号 >



< ウィズ91号 >



< ウィズ92号 >



< ウィズ93号 >



また、市役所や、公民館など市の行政施設に多くの部数をお預けし常備していただく取り組みを地域医療連携の協力により進めてきたところです。併せてドクターウィズでは地域の医療関係者の皆様への地域医療連携に資する内容としています。

今、渋川医療センターでは、新型コロナウイルス感染症への対応には地域の中核病院として、また、感染症指定医療機関としての役割を果たすべく全職員をあげてご尽力されているとお察しいたします。早く新型コロナウイルス感染症の終息を願い、今後も末永く渋川医療センターの発展と共にウィズの刊行が続くことを祈念しております。

職場紹介：放射線科



副診療放射線技師長 西岡 靖晃

放射線科とは

画像診断部門と放射線治療部門があります。現在19名の診療放射線技師で業務を行っています。

画像診断部門では

X線写真、血管撮影、CT、MRI、核医学検査等の画像診断を行っています。近年、診療放射線技師の仕事内容は多岐にわたり検査種ごとに、撮影法、画像解析、3D作成など専門的な知識が求められます。

放射線治療部門では

高精度放射線治療装置により放射線を照射する事で治療を行っています。

また最新の放射線治療技術である強度変調放射線治療も行っています。360度回転しながら放射線の照射する形状を変化させ目的病巣により適した照射が行えます。(IMRT)

われわれ診療放射線科技師は

放射線科医師をはじめ看護師、病院職員と協力し医療画像情報、放射線治療技術の提供を行っています。現在の医療は画像診断なくして成り立たません。しっかりとした画像診断が医療の質を保証する第1歩と考えています。そのため各種検査の特性と適応、画像診断に必要な解剖や病理、など専門的なトレーニングを受けて日々技術と知識の研鑽に励んでいます。同時に患者さんがより安心して検査・治療を受けられるよう装置の精度確保、品質管理も行っております。

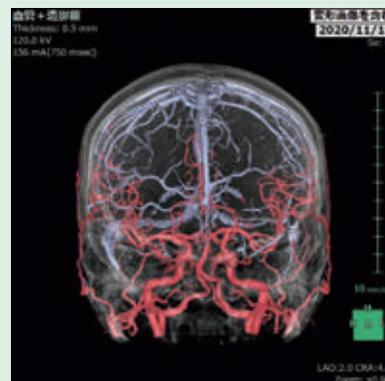
第77号認定 医療被ばく低減施設

当院は群馬県で唯一の「医療被ばく低減施設※」に認定されており、放射線被ばくの安全性と防護に十分注意を払って検査・治療を行っています。放射線検査や放射線被ばくについて疑問があれば遠慮なく診療放射線技師に質問してください。

※「医療被ばく低減施設」とは、公益社団法人日本診療放射線技師会が2005年から開始した施設の認定制度。放射線量の最適化に努め、機器の品質管理や患者への説明を徹底しているかを書面や現地訪問審査で、合格基準を満たした施設が、認定となります。全国でも128施設にとどまっています。(2020.9月現在)



PHILIPS Ingenia 3T (MRI 装置)



脳血管の3D画像 (CT 検査)



Versa HD 放射線治療装置 (リニアック)

職場紹介：看護外来



がん性疼痛看護認定看護師 奥澤 直美

患者さんにご家族を支える看護外来

当院の看護外来をご存じですか。

当院で通院治療をされている患者さんにご家族の治療や生活の不安、悩み等に、専門的知識と技術のある看護師が支援や指導、ケアを行う外来です。

～看護外来のご案内～

外来日：平日（祝日は除く）10時～16時

場所：外来Aブロック

受診方法：【当院に受診している方】

主治医または外来看護師に声をかけてください

【当院に受診していない方】

上記時間内に病院へお電話をいただき、
看護外来につなぐようお申し付けください



お気軽に
ご相談ください！

このようなご相談をお受けしています

- ・不安やつらい気持ちへの対応
- ・手術や抗がん剤、放射線治療の副作用の対処方法
- ・がんの痛みなどのつらい症状の対処方法
- ・リンパ浮腫の予防とマッサージ方法
- ・治療や療養する場所の選択、時期についての相談
- ・家族として悩んでいることなど

- ・がん看護専門看護師
- ・緩和ケア認定看護師
- ・がん性疼痛看護認定看護師
- ・がん化学療法看護認定看護師
- ・がん放射線療法看護認定看護師

- ・人工肛門や人工膀胱のケアについての相談
- ・床ずれの予防や処置の方法についての相談
- ・おむつによる皮膚のトラブルの相談

- ・皮膚排泄ケア認定看護師

- ・在宅酸素療法を行っている方の日常生活の相談
- ・在宅人工呼吸器関連の相談

- ・慢性呼吸器疾患看護
・認定看護師

今まで看護外来をご利用いただいた患者さんやご家族の方からは
「心配ごとを聞いてもらい気持ち整理ができた」などの声をいただきました。



渋川医療センター外来診療担当医表

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
一般内科	午前				モリ カズヨ 森 一世	
循環器内科	午前		マツオ ヤエ 松尾 弥枝 (北関) (第1.3.5週)	ミキ ユウコ 三樹 祐子(心血セ) (第1.3.5週)		ヤマギシ トシハル 山岸 敏治
	午後		イワサキ トシヤ 岩崎 俊弥 (北関) (第2.4週)	クリハラ ジュン 栗原 淳(心血セ) (第2.4週)		
脳神経内科	午後			ヤナギサワ タカユキ 柳澤 孝之 (第1.3.5週13:30~)		
呼吸器内科	午前	オオサキ タカシ 大崎 隆	トヨダ マサタカ 豊田 正昂(群大)	イトウ マサシ 伊藤 優志	ハラダ コウ 原田 航	クワコ トモヒト 桑子 智人
	午前	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	ムラタ ケイスケ 村田 圭祐	ツチャ ユキコ 土屋 友規子	サクライ レイコ 櫻井 麗子(群大)	ワタナベ サトル 渡邊 覚
	午前	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	スナガ ノリアキ 砂長 則明(群大)	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	オオサキ タカシ 大崎 隆	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘
	午前	イトウ マサシ 伊藤 優志				
	午前		マスダ トモミ 増田 友美(群大)			
内分泌・代謝内科 内 科	午前		ヒラガ ハルナ 平賀 春菜(群大) (内分泌・代謝内科)	オオサキ アヤ 大崎 綾(群大) (内分泌・代謝内科)	カワシマ チエコ 川島 智恵子 (内 科)	ヨシノ サトシ 吉野 聡(群大) (内分泌・代謝内科)
	午後					
内科 Walk in 外来	午前	内科 Walk in (渡邊、桑子、村田、金谷)	一般外来研修 内科 Walk in (松本、斎藤、入内島、中山)	一般外来研修 内科 Walk in (廣川、長島、木村、古谷)		一般外来研修 内科 Walk in (吉井、大崎、原田、伊藤)
小児科 (重心のみ・予約制)	午前			シミズ ノブソウ 清水 信三(重心)		
	午後			(第2.4週)		
血液内科	午前	ナカヤマ ケイタ 中山 敬太	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	マツモト モリオ 松本 守生	マツモト モリオ 松本 守生	カナヤ シュウヘイ 金谷 秀平
	午後 (予約)		オガワ ヨシユキ 小川 孔幸 (第2週)			
	午前	サイトウ アキオ 斎藤 明生	カナヤ シュウヘイ 金谷 秀平	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	イソダ アツシ 磯田 淳	サイトウ アキオ 斎藤 明生
	午前	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	サワムラ モリオ 澤村 守夫	ナカヤマ ケイタ 中山 敬太	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	オオサキ ヨウヘイ 大崎 洋平(群大)
消化器内科	午前	ナカジマ ヨシミ 中島 良実	ナガシマ タモン 長島 多間	ヤマザキ ユウイチ 山崎 勇一(群大)	ヒロカワ トモユキ 廣川 朋之	フルヤ ケンスケ 古谷 健介
	午前	キムラ ユウコウ 木村 有宏	カナヤマ ユウキ 金山 雄樹(群大)	ウエハラ ダイスケ 植原 大介(群大)		アダチ タクヤ 安達 拓也(群大)
緩和ケア科 (予約制)	午後	コバヤシ ゴウ 小林 剛		コバヤシ ゴウ 小林 剛	コバヤシ ゴウ 小林 剛	コバヤシ ゴウ 小林 剛
精神腫瘍科 (予約制)	午後	マジマ タケヒコ 間島 竹彦	マジマ タケヒコ 間島 竹彦		マジマ タケヒコ 間島 竹彦	
放射線治療科 (予約制)	午前		ナカムラ ユウジ 中村 勇司		ナカムラ ユウジ 中村 勇司	
	午後	ナカムラ ユウジ/マツウラ マサナ 中村 勇司/松浦 正名	マツウラマサナ/クワコケイコ 松浦正名/桑子 慧子	マツウラマサナ/クワコケイコ 松浦正名/桑子 慧子	マツウラマサナ/クワコケイコ 松浦正名/桑子 慧子	ナカムラ ユウジ/クワコケイコ 中村 勇司/桑子 慧子
麻酔科	午前		ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆	セキモト ケンイチ 関本 研一 (ペインクリニック外来)		ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆

外来受付時間 8時30分～11時00分 (注)担当医変更の場合もございますので、予めご了承ください。

※眼科の月曜日診察は紹介状をお持ちの方とご予約されている方のみ受診できます。

※整形外科は初再診にかかわらず、原則完全予約制です。

※原則、午後は予約診察のみとなりますが、★印の診察については受付時間は15:00までとなります。

※(予約)と記載がある場合は、予約患者さんごみの診察となります。

※再診予約の方については16:00まで再来受付機での受付が可能です。

※やむを得ない事情により突然の休診や診療医師変更もございます。ご了承願います。

◎予約変更について 受付時間：平日13～17時 TEL.0279-26-3010 (予約専用)
TEL.0279-23-1010 (代表)

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
循環器外科	午前				サカタ キミマサ 坂田 公正(北関)(第1週) ナカシマ クニキ 中島 邦喜(北関)(第3週)	
外科(消化器)	午前	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	ヨシナリ ダイスケ 吉成 大介	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文
	午後			スケガワ シンサク ★助川 晋作 (肛門科・消化器外科) (第1.3.5週 13:30~)		
	午前		タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文		タカハシ ケンゴ 高橋 研吾	
外科(呼吸器)	午前	ヤマキ エイ 八巻 英		カワシマ オサム 川島 修		カワシマ オサム 川島 修
	午前					ヤマキ エイ/タカセ ヨシアキ 八巻 英/高瀬 貴章
脳神経外科	午後14時から 17時迄					ナガキ トモヒト 長岐 智仁(群大) ヤマグチ レイ 山口 玲(群大) アイシマ カオル 相島 薫(群大)
	午前	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 【予約制】高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司
	午後					イベ ヨウコ 伊部 洋子(群大)
	午前		ヒラト マサブミ 平戸 政史		ヒラト マサブミ 平戸 政史	
	午後(予約)				ヒラト マサブミ 平戸 政史	
	午前					
	午後(予約)			ヒラト マサブミ 平戸 政史		
ニューロ モジュレーション外来	午後			★ニューロモジュレーション外来 14:00~		
整形外科 (予約制)	午前	キタガワ タカノリ 喜多川 孝欽	群大医師			
	午後			オカムラ コウイチ 岡邨 興一(群大) (第1.3.5週) タカセ リョウタ 高瀬 亮太(群大) (第2.4週)		ヨネモト ユキオ 米本 由木夫 (第2.4.5週) 【リウマチ専門外来】
	午前	カヤカベ マサトモ 加家壁 正知	カヤカベ マサトモ 加家壁 正知		カヤカベ マサトモ 加家壁 正知	キタガワ タカノリ 喜多川 孝欽
泌尿器科	午前	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	オカベ カズヒコ 岡部 和彦(第1.3.5週) セキグチ コウイチ 関口 雄一(第2.4週)	タムラ ヨシミ 田村 芳美	セキグチ コウイチ 関口 雄一
	午後(予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美		セキグチ コウイチ 関口 雄一	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午前 10:00まで	セキグチ コウイチ 関口 雄一	セキグチ コウイチ 関口 雄一	タムラ ヨシミ 田村 芳美	セキグチ コウイチ 関口 雄一	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午前 10:00まで					ネノイ ツバサ 根井 翼
耳鼻咽喉科 (9:00-14:00)	午前			オカモト アヤコ 岡本 彩子		オカモト アヤコ 岡本 彩子
皮膚科	午前	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	アオヤマ クミ 青山 久美
	午後(予約)	アオヤマ クミ 青山 久美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	アオヤマ クミ 青山 久美
	午前	アオヤマ クミ 青山 久美	シバ カナ 柴 佳那(群大)(第2.4週)	アオヤマ クミ 青山 久美	アオヤマ クミ 青山 久美	
甲状腺科	午前	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後(予約)			ヨコタ トオル 横田 徹		
乳腺科	午前	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコタ トオル 横田 徹	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子		ヨコタ トオル 横田 徹
	午後(予約)		ヨコタ トオル 横田 徹			ヨコタ トオル 横田 徹
乳腺・甲状腺科	午前	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコエ タカオ 横江 隆夫		
眼科	午前	群大医師	キクチ ユカ 菊池 悠佳(群大) (偶数月担当)	ミムラ ケンスケ 三村 健介(群大)		
	午後(予約)		ムカイ リョウ 向井 亮(群大) (奇数月担当)			
	午前	ムカイ リョウ 向井 亮(群大)				

セカンドオピニオン担当表 (令和3年1月1日現在)

科 別	予約時間	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後3時30分～	吉井 明弘	—	吉井 明弘	—	—
呼吸器外科	午前中	川島 修	—	—	—	—
血液内科	午後2時～	松本 守生	—	—	—	—
乳腺・甲状腺外科	午後2時30分～	横江 隆夫 (午後～)	—	横田 徹	—	—
消化器外科	午後	蒔田 富士雄	—	小林 光伸	—	—
放射線科	午後3時～	—	—	松浦 正名	中村 勇司	—
緩和ケア科	午後	小林 剛	—	—	—	小林 剛
皮膚科	午後3時～	高橋 亜由美	—	—	—	—
泌尿器科	午後3時30分～	—	—	—	—	田村 芳美
脳神経外科	午後	—	—	宮城島 孝昭	—	—

※対象者:原則として患者さん本人、患者さんの同意を得た家族 費用:30分毎に5,500円

※お問い合わせ先:TEL0279-23-0626 地域医療連携室(直通)

患者さんの権利

1. 最善の医療サービスを受ける権利
2. 人格・人権を尊重される権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーを保護される権利

がん相談支援センター

- がんに関するご相談は「がん相談支援センター」でお受けします。
担当:ソーシャルワーカー
電話:0279-23-1010 (代表)
(受付時間は平日8:30～17:15です)
- メールによるご相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail:207-ShibuKawaMC_mbx@mail.hosp.go.jp

看護の理念 患者さんの立場に立ち、心あたたかく、信頼に応える看護を提供します。

看護の基本方針

1. 患者さんの気持ちを大切に、思いやりとまごころ込めた看護を提供します。
2. 患者さんと共に考える看護の実践により患者さんが自ら意思決定が行えるよう支援します。
3. 地域の人々と連携を図ることで患者さんの生活の質の維持向上に努めます。
4. 患者さんの尊厳と権利を尊重した質の高い看護を提供します。
5. 看護の専門性を追求し、根拠に基づいた安全で安心な看護を提供します。

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。本年もウィズをよろしく申し上げます。

さて、第100号のウィズはいかがだったでしょうか?西群馬病院から勤務されている松本副院長、横田がん診療部長、渋川医療センター移行時から事務部長を務められた、宮崎さん、楠さんにそれぞれ原稿執筆をお願いし、ご寄稿いただきありがとうございました。

先日、精神科医からトンネルとストレスの話を知りました「人は真つ暗なトンネルでは、進むのか戻るのか迷ってストレスになってしまう。しかしながら、少しでも明かりが見えればストレスは一気になくなる、それが何百メートル先であっても、かすかな明かりであっても明かりさえ見えていればストレスにはならない」というお話でした。今はまだ、真つ暗なトンネルかもしれませんが、一刻も早く一縷の明かりが見えることを願っています。コロナ禍に明け暮れた2020年でしたが、2021年は、皆様にとって明るく元気な明るい年になりますようにお祈り申し上げます。
(萩原 隆)



独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター

〒377-0280 群馬県渋川市白井383番地 TEL 0279-23-1010 (代) FAX 0279-23-1011

<https://shibukawa.hosp.go.jp>